

日常の食事を記録する FoodLog

相澤清晴¹

概要：毎日の食事をマルチメディアデータとして記録し活用する技術基盤として、著者らは FoodLog というシステムを開発・構築してきた。食事を記録するツールは数多くあるものの、テキストで入力し、テキストを残すものがほとんどであり、入力のための手間がかかるとともに、記録が一目でわかる直感的なものからはほど遠い。FoodLog は画像による記録を行う先駆けとしてのツールであった。入力の手間も、画像認識による入力の支援によって軽減された。当初は、Web ベースのシステム(2008)、つぎにスマートフォンベースのアプリ(2013)となり、現在に至っている。foo.log(株)という組織を作り、アプリを一般利用に提供し、これまで 1000 万件を超える食事記録を収集している。その FoodLog プラットフォームは、食事画像認識やデータベースが API を介して利用可能に整備されている。収集データから、全体の食事の傾向、個人の食事の傾向、年月にわたる推移を可視化することもできる。2018 年末には、我々の研究室で、新たに FoodLog Athl というアプリを構築した。FoodLog の API を活用し、食事記録を支援するとともに、そのモニタを行う管理栄養士のツールを作り、両者のコミュニケーションを支援する。東大のアメフト部の強化選手の栄養管理（ドーム(株)が栄養管理を実施）において利用が行われ、モニタの仕組みまで近く公開する予定である。本講演では、この FoodLog の一連の取り組みと、最新の FoodLog Athl について紹介する。

キーワード：マルチメディア、画像認識、食事記録

¹ 東京大学 大学院情報理工学系研究科
The University of Tokyo